事例研究報告

小学部児童における援助要求を伝えに行くことができるための指導
～視覚プロンプトフェイディングを活用して～

児童の実態

- 知的障がい　自閉症

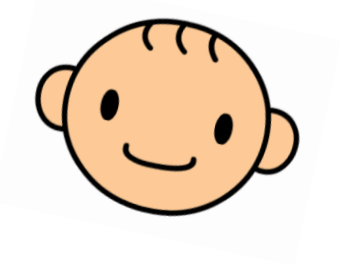
- コミュニケーション面
  受容：簡単な言語指示が理解できる
  表出：定型文でのやりとりはできるが会話の
  キャッチボールは難しい

- 人や場所など環境が変わると，できていたことができなくなることがある

- 対面課題学習にて，援助要求に必要なフレーズは学習済みであるが，自発的に伝えに来ることは難しい

保護者の願い

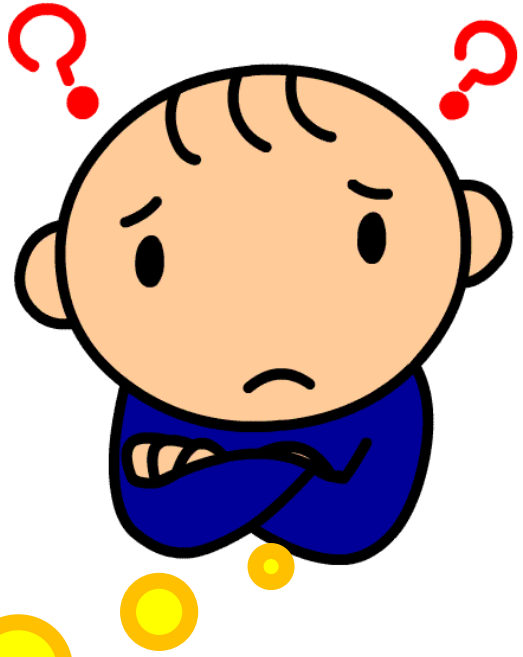
- 自分の気持ちを伝えられるようになってほしい
- 言葉でのやりとりやキャッチボールが増えてほしい



教員の願い

- 困ったことがあったときに，近くの大人に援助要求を出せるようになってほしい
- 大人の近くまで来て，援助要求を伝えることができるようになってほしい

児童の実態
保護者の願い
教員の願い



何から教えたら
よいのだろう･･･？

アドバイザーからの助言（1回目）

① 既習のフレーズの中から，さまざまな場面で**使えるもの**に絞る
例:「てつだってください」

② 言葉でのやりとりができそうなため，**カード**を工夫して援助要求ができるように指導する

③ 具体的な**フェイドアウトの仕方**と**手順**，**記録の取り方**を決めて指導を行う

＜指導目標＞
援助要求を伝えに行くことができる

＜指導場面＞
自立課題学習時

ベースラインを取ってみると，対面課題学習では既習のフレーズを状況に応じて使い分けていることがわかったため，主として不足の要求から始めることとした

具体的な指導目標：「足りないのでください」と教員に近づいてから，援助要求を伝えることができる

ステップ1：コミュニケーションブックを使用し，不足の要求を伝える
ステップ2：コミュニケーションブックの文字カードの文字色を薄くしたものを使用し，不足の要求を伝える
ステップ3：文字カードなしで不足の要求を伝える

視覚プロンプトフェイディング

具体的な指導目標：「足りないのでください」と教員に近づいてから，援助要求を伝えることができる

～ステップ1～3における共通の手続き～

① 「足りない物があったときは，ブックを使いましょう」と予告する

② 予め自立課題の中から，パズルのピースや文字チップなどを抜き，不足した状態にしておく

③ 活動が滞ったときに，コミュニケーションブックを指差す

④ 文章を構成して伝えることができたときは，称賛しながら要求に応じる

- 月に1回程度，アドバイザーより助言
- 教員間で動画を共有して意見交換

＜記録方法＞
2点：できた
1点：プロンプトあり（指差し）
0点：できなかった

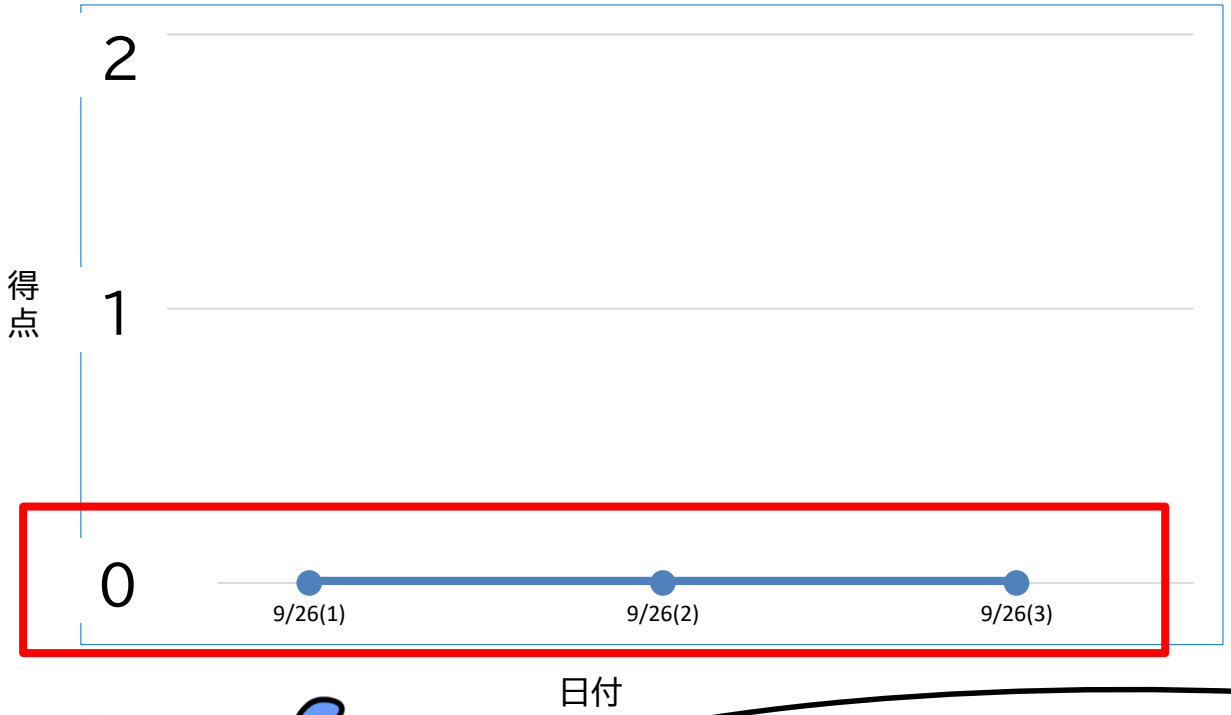
として，グラフ化する

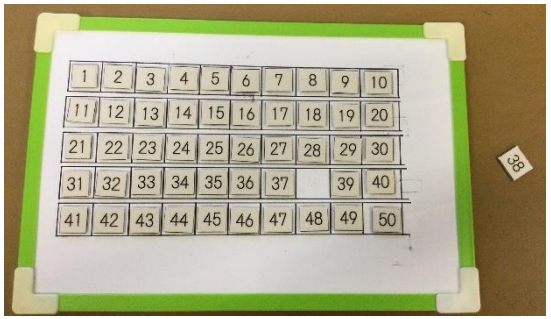
- 1日に複数回実施する場合，「日付（回数）」で記録をとる

- 動画撮影を行い，教員と児童の距離が確認できるように記録する

9月末　ベースライン

コミュニケーションブックを使用し，
不足の要求を伝える



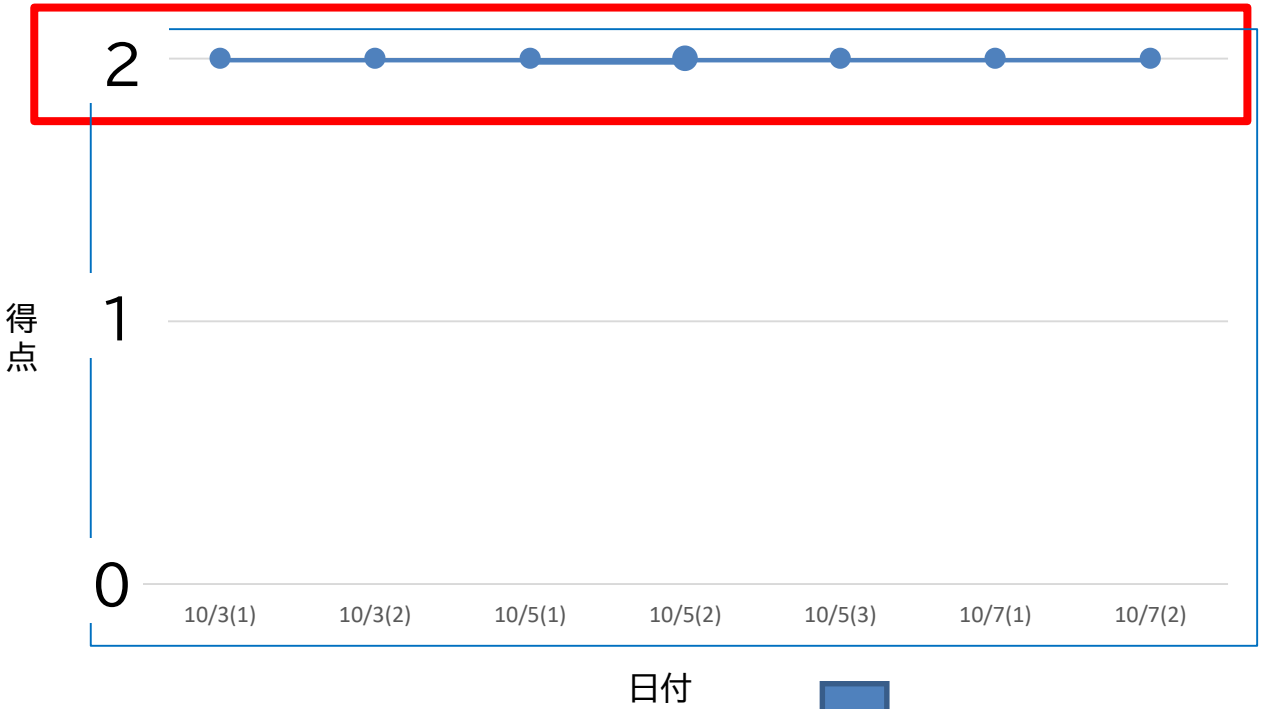


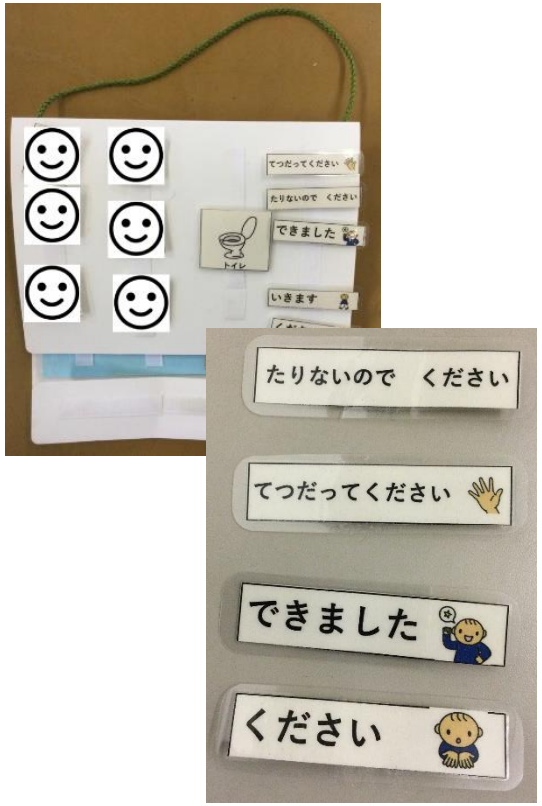
2：できた
1：プロンプトあり
0：できなかった

「あれ！？」・・・「ない！！」
（こまったなあ・・・）自席に座ったまま停止

ステップ1

コミュニケーションブックを使用し，
不足の要求を伝える

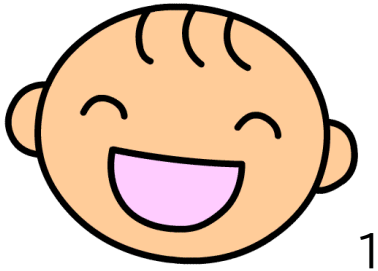




2：できた
1：プロンプトあり
0：できなかった

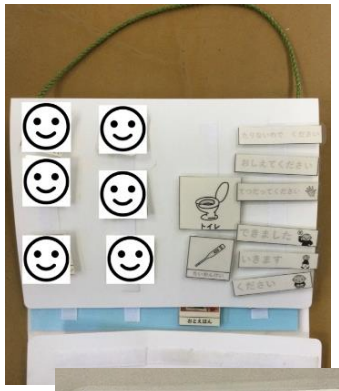
達成！

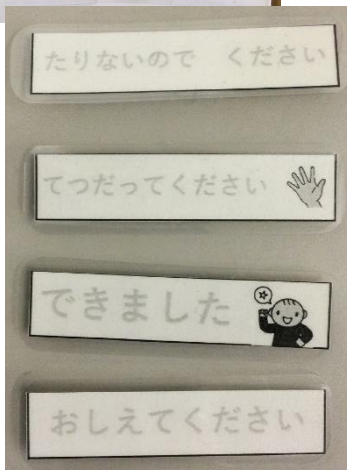
次のステップへ

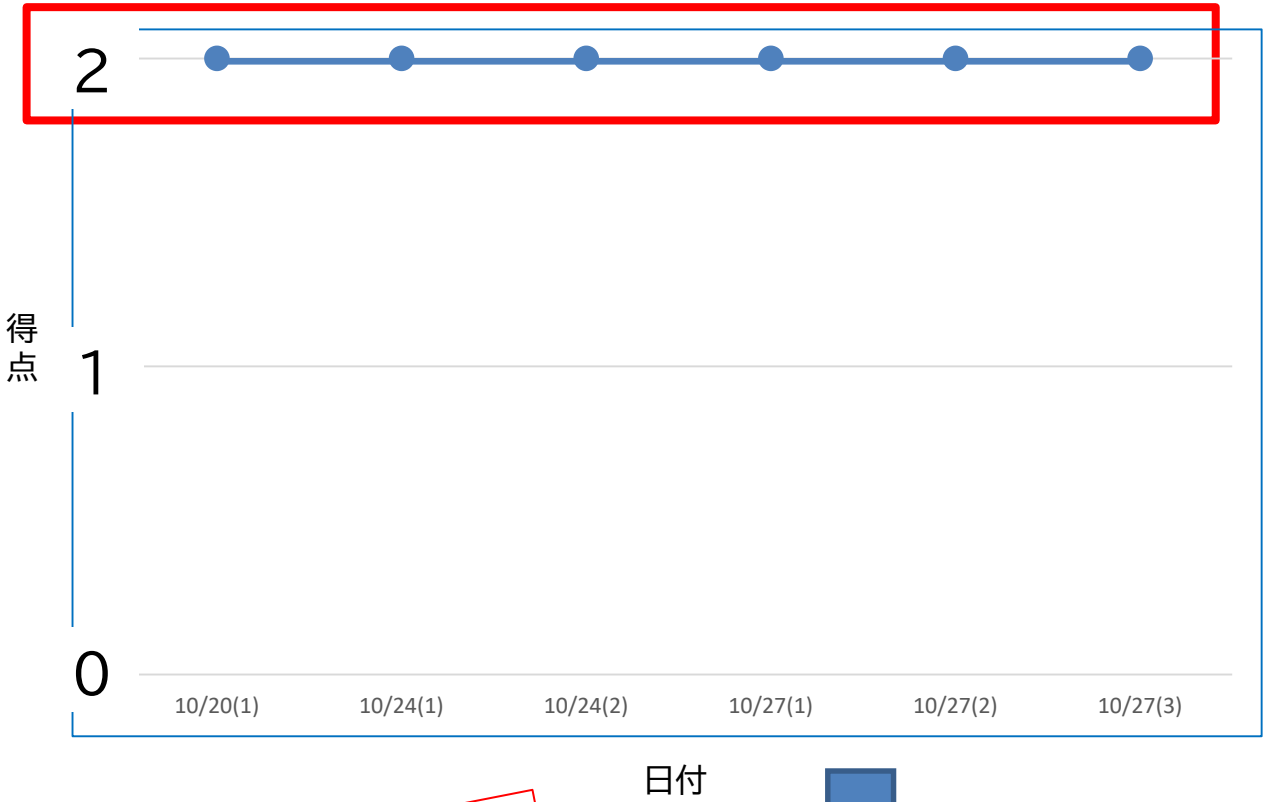


ステップ2

コミュニケーションブックの文字カードの文字色を薄くしたものを使用し，不足の要求を伝える



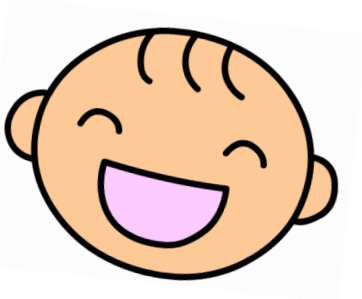




2：できた
1：プロンプトあり
0：できなかった

達成！！

次のステップへ



番外編その1(ステップ2.5)

完全にできているフレーズで文字カードをフェイドアウトしてみる

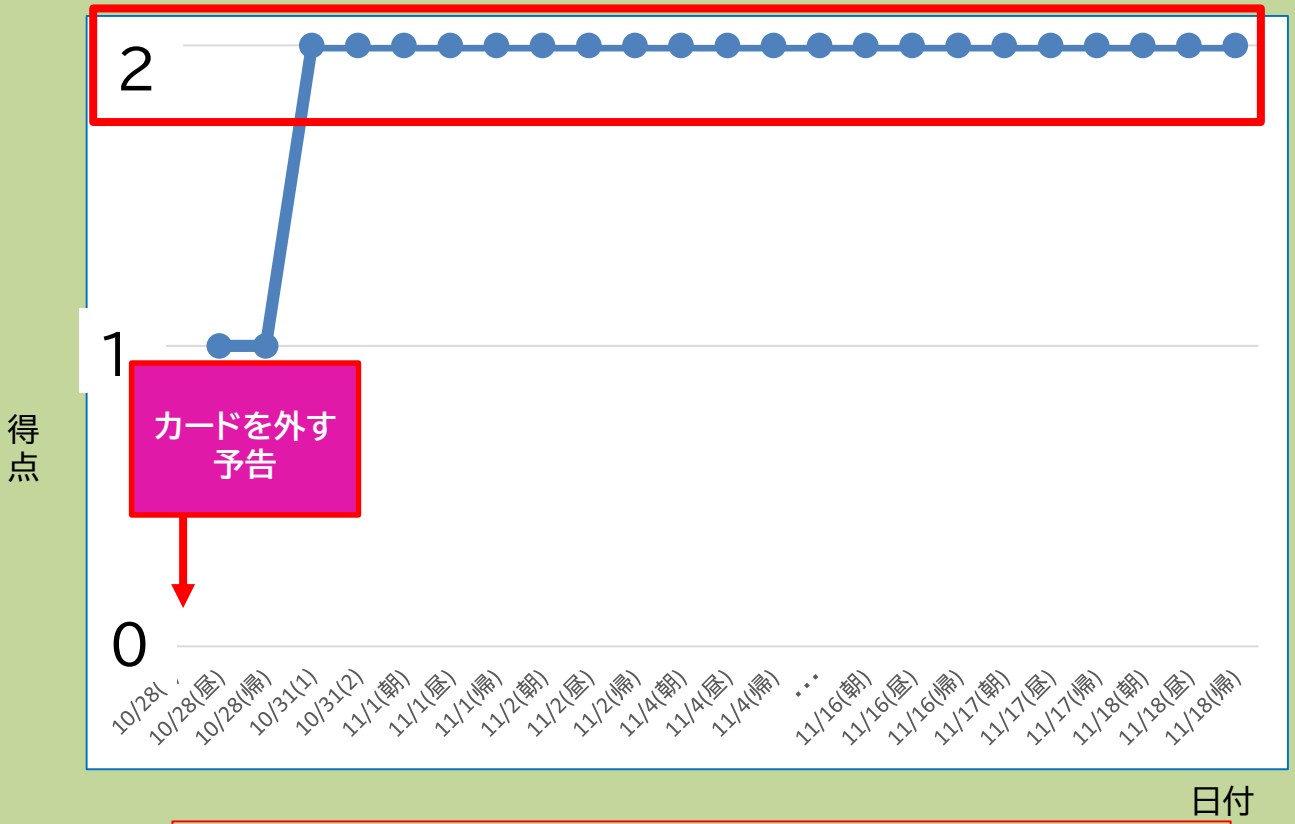
文字カードなしで「体温計おねがいします」の要求を伝える

＜理由＞

- 1年生時より継続して取り組んでおり，フレーズになじみがある
- 1日3回，反復して行える
- 文字カードをフェイドアウトするに当たり，負担が少ない

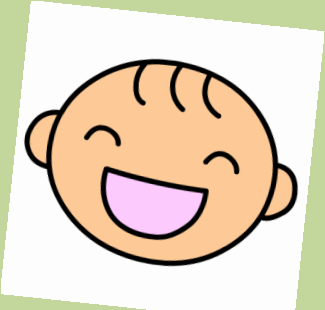
番外編その1(ステップ2.5)

文字カードなしで「体温計おねがいします」の要求を伝える



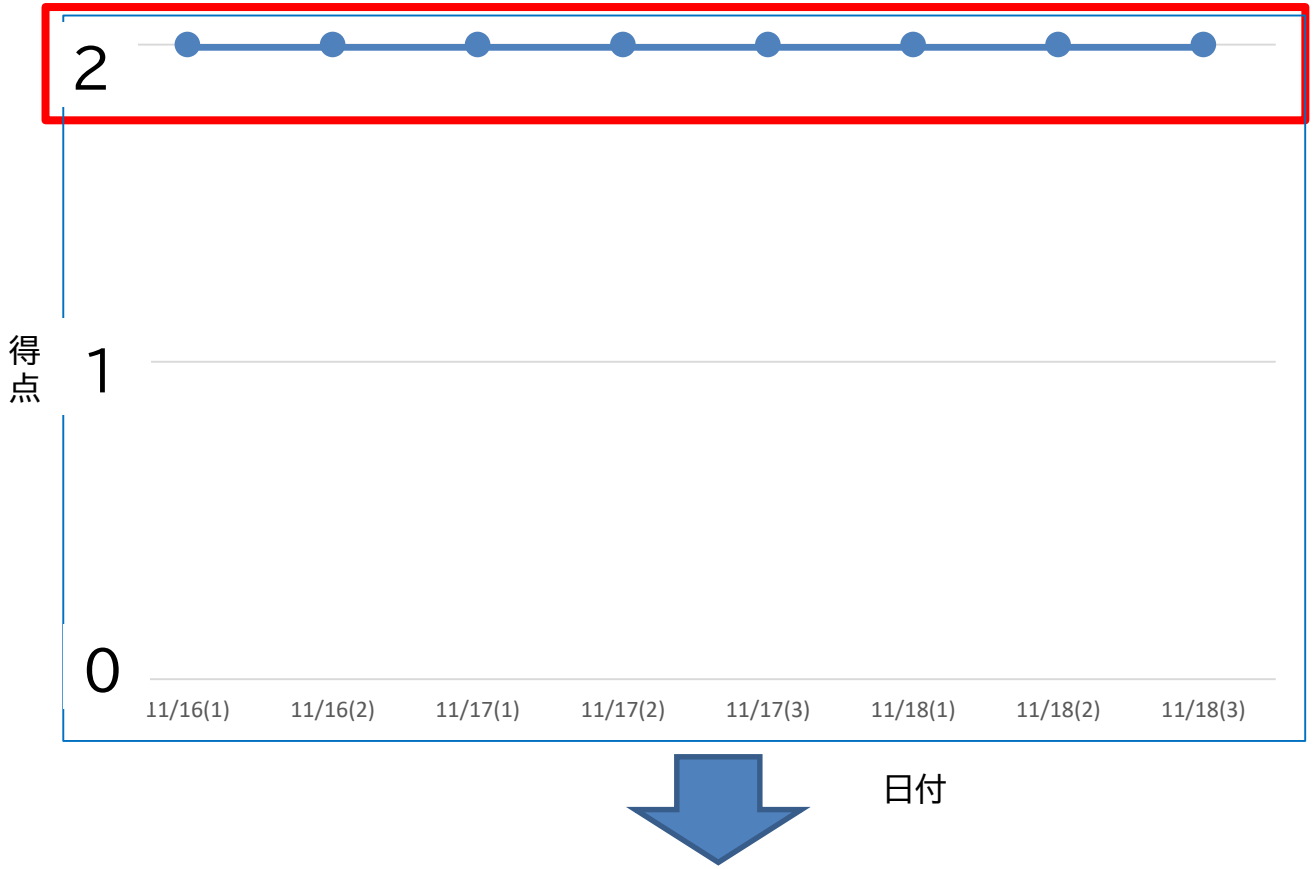
2:できた
1:プロンプトあり
0:できなかった

できた！　達成！！



ステップ3

文字カードなしで不足の要求を伝える



2:できた
1:プロンプトあり
0:できなかった

やったぁ！達成！！！

アドバイザーからの助言（2回目）

- 丁寧なフェイディングなしでもできたかも

→文字カードをなくす予告だけでOK？
カード（文字＋イラスト）を使って段階を踏む必要あり？

児童にとって最短の支援を考える

- レパートリーを増やす→練習（カード）→実践（カードなし）

→援助要求をするためのフレーズを増やす
物の名称の理解

伝え方が分かれば般化へと繋がる

アドバイザーからの助言（2回目）

- **できなかったときは**

  ①プロンプトを戻す

  できていた1つ前の環境でやってみる

  ②強化子を増やす

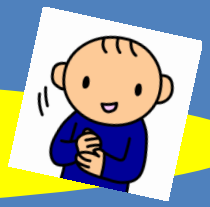
  モチベーションを上げることができる

- **今後の取り組み**

  場面や物を変える

  「　　がありません」カードの使用

癇癪や気持ちの乱れの予防につながる



番外編その2（伝達場面）

文字カードなしで「トイレ行きます」と伝える

指導の経緯

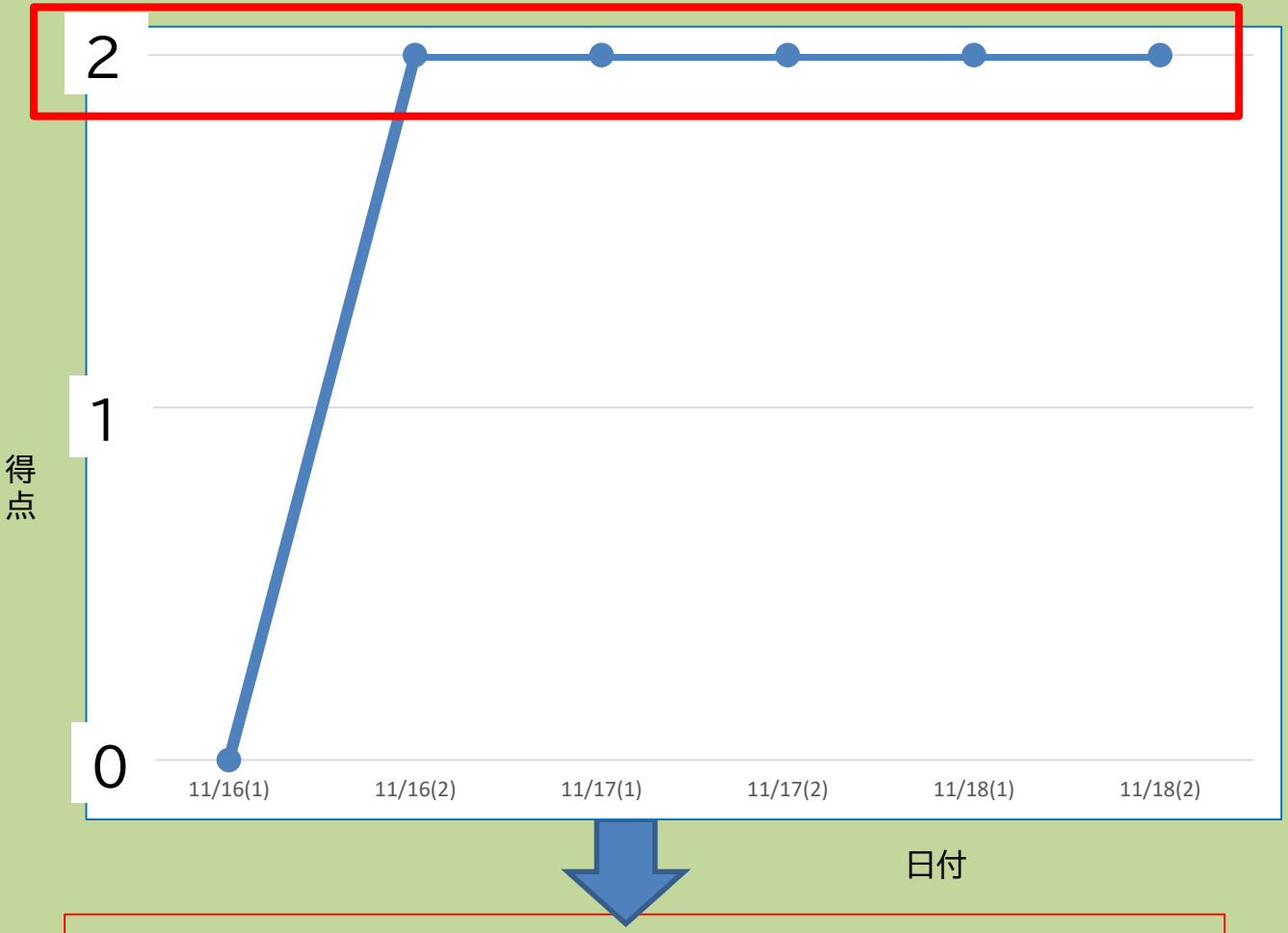
- 定時排尿
- （トイレに行きたいときに，伝えて行けたらいいなあ）
- トイレに行きたいときに，コミュニケーションブックを使用し，「トイレいきます」と伝えることができた
- 文字カードを外すことを予告

できた！

- 一度，成功経験を積むと，継続してできることが多い
- 称賛されたことで，自信に繋がった

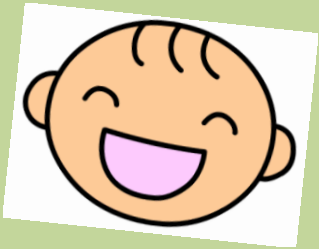
番外編その2（伝達場面）

文字カードなしで「トイレ行きます」と伝える

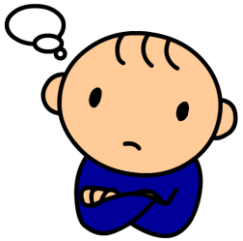


2：できた
1：プロンプトあり
0：できなかった

できた！　般化できた！！



まとめ・考察



最短の支援は何か

- 早い段階でフェイディングを試すことで，最小限の支援で目標とする行動が引き出せることが分かった
- フェイディングするタイミングや段階の精査が必要である

実践を通して

- 同様の手続きを踏めば，援助要求のパターンを増やしたり，伝達場面や報告などの場面でも活用したりすることができる

コミュニケーションブックの使用

- 自発的な音声言語を引き出すためのアイテムとして有効であった

ここが成功のポイント

- 1日に複数回, 同じ状況を作り, 繰り返し実践を行うことで, 成功経験を重ねることができ, 自信を深めることに繋がった
- 「素敵な言い方だね」と複数の教員から称賛されることで, 行動が強化された
- 援助要求のためのフレーズを知り活用することで, 自分が困っていることが相手に伝わった実感を持てるようになった
- 児童が援助要求を出しやすい学級の雰囲気作り